

事務事業評価表

○基礎情報

課名		下水道河川総務課	作成責任者
施策目標	52	下水道経営を健全に安定して行う	大竹 功

常勤職員		常勤職員以外			総従事者
管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工
1 人	11 人	0 人	1 人	4 人	13.93 人

時間外勤務時間	
総時間	一人あたり月平均
1,936 時間	14.7 時間

1 施策指標と実績 (Do)

施策指標名	4次実施計画の 現状値	目標値 (R2年度)	実績値		
			H28年度	H29年度	H30年度
公共下水道使用料徴収率(官庁会計上の現年度分)	98.18%	98.98%	98.18%	97.55%	97.02%
0	0.0%	0			
0	0.0%	0			

(施策のねらい)

1	下水道経営の健全化・安定化
2	水洗化普及率の向上
3	0
4	0
5	0
6	0

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった

A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める

C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める

D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない

E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない

2 未着手事業(計画していたが未実施に終わった)

実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(平成30年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)											Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	H29予算(円) ----- H29決算(円)	H30予算(円) ----- H30決算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 どうなったか(生まれ (対象) (手段・方法) れた成果・効果)	事務事業の指標	H30目標値	H30実績値	評価	取組 時間	事務 改善	休・ 廃止
1	下水道事業の広報活動	2	0.19	特別	10,000 ----- 0	467,000 ----- 465,692	市民に対し、広報紙やホームページ、下水道ふれあいまつりを通して下水道の役割等の広報を実施。下水道に対する理解を深めていただくことができた。	下水道ふれあいまつりに出店したブースへの来場者数	600人	621人	S	変動なし		
2	水洗化の普及及び促進に関する事務	2	3.40	特別	8,033,000 ----- 6,610,487	2,609,000 ----- 2,289,465	シルバー人材センターへ委託し、公共下水道未接続世帯に対する訪問活動を実施。公共下水道事業の健全化及び一層の水質改善を図ることができた。	新たな下水道接続世帯数	122件	117件	S	増加		
合計					H30 予算 (円) ----- H30 決算 (円)	3,076,000 ----- 2,755,157								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課かいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)

下水道河川総務課の平成30年度の事務事業数は25事業あり、うち政策的事業は2事業である。政策的事業の評価結果は、両事業とも「S」となった。また、施策目標としている下水道事業の安定運営についても、財務諸表の分析に基づく適切な予算執行を意識することで、前年度に引き続き黒字経営を維持することができた。

「水洗化の普及及び促進に関する事務」については特に注力していく必要があると考え、多くの人工を割いた。勸奨業務をシルバー人材センターへ委託をおこなうことで、事務の効率化にも努めている。水洗化の普及促進を通じて生活環境の改善を図るとともに、公共下水道使用料の安定徴収を維持したい。

職員の時間外勤務については、総時間で1,936時間、一人当たりに換算すると月平均14.7時間であり、前年度の総時間2,163時間、一人当たりの月平均16.4時間と比較し減少となった。今後も事務精度を維持しつつ、引き続き時間外勤務の縮減を図りたい。

今後は、人口減少等の理由により下水道使用料の減収も見込まれるが、適宜適切な経営判断を行い、健全かつ安定的な下水道事業の運営を実現する。

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は -)	事務改善の内容
-	-	-
-	-	-

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は -)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
-	-	各事業とも不可欠な事業であり、休・廃止すべき事業ではない。
-	-	-

6 働きかたの見直しにおける取り組み結果(28-30年度の3か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

取り組みの結果

平成29年度より水洗化の普及促進に係る勸奨業務をシルバー人材センターへ委託し、事務の効率化を進めた。また、一人の職員が様々な事務に対応でき、積極的な相互協力ができるよう、年度ごとに事務のローテーションを行った。結果として、事務の生産性を損なうことなく時間外勤務の削減が図られている。